矢作川流域圏懇談会 第１回市民会議　議事概要

日時: 平成 22 年 11 月 6 日(土)13:30～16:30
場所:豊田市福祉センター　小ホール

１．開　会

２．あいさつ

市民会議　暫定座長（矢作川「川会議」代表）　硲　さくら

３．座長・副座長の選出、部会長・副部会長の選出について

(1)座長･副座長の決定

座長・副座長として以下の３名が選出された。

・座長
矢作川「川会議」代表　　硲　さくら氏（川部会）
・副座長
矢作川水系森林ボランティア協議会　副代表　　稲垣　久義氏（山部会）
伊勢・三河湾流域ネットワーク　代表世話人　　井上　祥一郎氏（海部会）

(2)部会長、副部会長の決定

・部会長は座長・副座長が山・川・海部会長を務め、副部会長は、部会長の指名により選出された。

［山部会］

部会長	：矢作川水系森林ボランティア協議会	副代表	稲垣 久義　氏
副部会長	：BIO de BIO	代表理事	黒田 武儀　氏
副部会長	：奥矢作森林塾	理事長	大島 光利　氏

［川部会］

部会長	：矢作川「川会議」	代表	硲　さくら　氏
副部会長	：豊田市自然愛護協会	会長	光岡 金光　氏
副部会長	：矢作川治水史研究会	幹事	小澤 祐治　氏

［海部会］

部会長	：伊勢・三河湾流域ネットワーク	代表世話人	井上 祥一郎　氏
副部会長	：西三河野鳥の会	事務局	高橋 伸夫　氏
副部会長	：矢作川をきれいにする会	会長	鈴木 陽子　氏

４．主な意見

第１回市民会議での意見のうち、３グループで議論した内容を以下に示す。

(1) 山・川・海への思いと課題（分野別）

■山に対する思い

地域資源としての「山」

- 人工林を間伐することで力のある森をつくりたい（現状では、鹿が里に降りてきて村人の車、数十台に衝突している。力のある森になれば熊も下りてこない）。
- 人工林はお宝の山。
- 人工林の公益的側面を最大限に生かせるようにしたい。
- 湿地の保全を進め、子ども達に矢作川流域圏の原風景を残したいと思っている。
- 湿地をラムサール登録したい。

流域連携により山を守る

- 山の守り手がいないので、村人づくりをしたい。それにより、山の田んぼの保水力を残す、多品種の山をつくる、隼に十分な餌を提供する。
- 流域の森の活性化を協働でやっていきたい。
- 地元の人との交流を深めながら、人工林の整備を進めていけるといい。
- 矢作川上流地域が森林・治山整備にお金を投資していることを、下流の方々に理解して頂きたい。

■川に対する思い

矢作川のことをよく知る

- みんなが川に来て、川を見て欲しい！
- 川は危険であり、洪水が起こることもあるということを住民に改めて認識させることが必要。
- 自分の住んでいる所の過去の水害や、地形的な特徴を知って欲しい。
- 大実験場を作りたい。水制工や流れの研究をしたい。
- ハザードマップが何でそうなるのか、知りたい。
- 地方自治体の川の拡幅と、生きもの生息状況の情報提供をして欲しい。生息環境については、特に事業実施中に。

きれいな矢作川をつくる

- 工事現場からの異常排出水を防止する。
- 土砂・濁水の流出を防止する。
- 生活排水対策が大切だ。「生活排水」は全て公共処理場で受け入れて欲しい。
- 流域の排水対策の力になりたい。
- 矢作川本川だけでなく、家下川などの支川の水質もきれいにしてもらいたい。
- EM を 1t 作るのに 4,000 円。月に 2～3 回早川へ投入している。家庭用では 400 円で 50ℓ作って利用できる。EM 入り廃油石鹸も利用されている。こういったことに気づいて欲しい。

生き物との共生を図る

- 川は生きものの生まれる胎盤のようなもの、優しく、懐かしいところを守りたい。川は

胎盤、生命の源を守ろう！

- 昔はホタルが乱舞した川なので、そのような姿を戻したい。
- 色んな生物が集まってくる環境を創出したい。
- アユが遡上をできる川を。矢作川と言えばアユだ。生物のつながる環境を創りたい。
- 都心部の里山を作る。空気のおいしい都心の林。

子供たちへの資産として引き継ぐ

- 次世代の子ども達に矢作川の良さや川の遊び方などを伝えていくことが大切。
- 子ども達の川への愛着や思いをもっと増やしたい。
- 子どものため、動物のために、河川内に小川「わんど」「河川内ビオトープ」を作りたい。
- 子どもたちが安心して家下川に近づける場所を増やしてもらいたい。

地域資源として活用する

- 川の中には竹も多く、竹の有効活用として、５００～６００本は、正月のどんど焼きに活用している。今後は、竹ぼうきをつくって（製作する職人はいる）学校に提供したいと考えている。
- 千曲川で行っているように、切った木をストーブの材料にしたらどうか。また、高水敷は、牧草地にしてはどうか。
- 河川敷を運動する場として活用する。

安全なくらしを守る

- 先人が築いた治水財産を将来へ確実に引き継ぐことが必要。
- 何か洪水などがあって、木が流され、橋にでも引っかかったら、災害になるのではと思い、できれば川にある木を２m以下にしたいと考えている。

■海に対する思い

- 上流域は石ころが「ごろごろ」している。下流域河口には、きれいな砂がある干潟を守っていきたい。

■流域共通の課題

流域一体の取り組みを広げる

- 上下流の相互理解が必要。
- 地域社会で生きていける流域圏をつくらないとダメ。
- 上下流の交流をはかり、お互いの違いを認識すること必要だ。
- 活動団体が連携していくことで、解決できることが増える。
- 各団体の垣根を越えた取組をしなければならない。

（個別の課題）

- まずやってみる！話してばっかりではダメ。
- 脱無関心。関心を持つ人が少ない。
- 学校のカリキュラムに組み込むことは、事前に計画的にやらないとならない。
- 近くに題材がない子どもには、どう教育していけばよいか。
- 湧水が少なくなっていないか？ケイ素の供給が減少する。
- 日本人だけで活動してよいのか。外国人の方のバーベキュー→マナーを知ってもらう必要がある。

■山の課題

山の荒廃

- 国の政策で人工林の山になったため、動物たちが餌をとれず、里に下りて来る状況である。
- 現在のように山が荒廃したのは、木材価格が１／３程度になり、間伐をする動機づけがなくなってしまったため。
- 山を放棄すれば、荒れるばかりであり、夏は洪水、冬は水枯れが起こってしまうのではないか。
- 木材価格の低迷により、森林保有者は間伐から手を引き、益々森林の荒廃となっている。

人工林からの転換

- 戦後、国の政策で人工林を増やしてきたが、人工林比率 70%では、多すぎる。国が間伐補助をもっと出すべきである。
- よい材料、強い山林、多様な森林づくりのために、間伐等山の手入れの促進が必要だ。
- 大雨、雪、台風等の災害に強い山づくり。
- 流域の森林保全。森林整備の促進を図ることが必要。

村人づくり

- 上流に住んでいる人がいない。
- 旧作手村には、小学校４つあるが、全校生徒数はそれぞれ 4 人、10 人、29 人と子どもが少ない。

水源の確保

- 水源を中国企業が買っている。
- 水を生み出すのに、森林整備が必要。

■川の課題

水質の改善

- 公共事業による濁水の影響を軽減したい。
- 矢作川の問題は、濁水であると思う。

- 造成工事に伴う濁水対策の実施を。
- 農薬、畜産、塩カルが心配。浄化槽の整備など、きれいな水づくりを。
- とん舎、牛舎のし尿処理。
- 油ヶ淵周辺の伐採き時の濁水は問題！
- 地域によって水質に差がある。
- 加茂川は見た目はきれいな川だが、水質が悪いのが問題。

親しめる川づくり

- 矢作川河川敷の整備内容に自治体間の差があるように感じており、どの自治体からも均等に矢作川に近づけるようにしてほしい。
- 川で遊ぶ場所が無い。子ども達の川離れが進んでいる。
- 河川敷の有効活用。具体的には安全に使える場所に整備して欲しい。
- 昔は親などの年長者が川での遊び方を子どもに教えていたが、今は親の世代も川での遊び方を知らないので、親にも川での遊び方を教える必要がある。
- 危険な場所には近づけない工夫が必要。

生き物との共生

- 川との触れ合いや、生物と触れ合う機会を増やすこと。
- 河川敷の利用は、野生動物へ配慮すべきだ。
- 中流部の里地で熊の出現が増加している。防止対策を。

ゴミ問題

- ゴミ（ペットボトル、空缶）の不法投棄が多い。大雨が降ると上流から流れてくる。
- 流入ゴミの処理は誰が行うのか。ルール化が必要ではないか。
- 家下川に不法投棄がされている。

樹木管理

- 川の中なので、草刈りが非常に大変。学生も含め、延べ８００名程度の人が手伝いを行っているがそれでも追いつかないくらい。できれば、豊田市に散策路を舗装してもらいたいと考えている。
- 樹木の管理等をボランティアに期待しすぎると、継続できなくなるのでは。
- 上昇してしまった河床をどうするかが急務である。特に、河床が上昇すると樹木が繁茂しやすいので、どの程度、伐採するのかを今後、検討していく必要がある。

（その他）

- 中流域では土石流が発生している。
- 川を守る気運を高めることが重要。
- 犬の散歩で「フン」を持ち帰らない人がいる。

■海の課題

干潟の保全・再生

- 河口付近の土砂が減少している。干潟の復活のために何とかしたい。
- 干潟の保全のためには、上下流交流が大切だ。

ゴミ問題

- 海岸には多くのゴミが流れてきており、拾ってもキリがない状況である。
- ゴミ、洪水時に下流に流れ着く。今年はスナメリがゴミを食べて5頭亡くなった。

関心の喚起

- 一色町の干潟で地元の子ども達は遊ばない。
- 一色町の子ども達は、海の近くで生活しながら、殆ど海のことを知らない。

（その他）

- 川の河口域、出口の干潟は上流から勢いよく水が流れないため、河口付近の海水と中流域の「汽水」の入れ替えしかしていない。「赤潮の原因」になる。

⑵ グループ発表

【A グループの討議内容について黒田 山副部会長より発表】

・Aグループでは、山から課題が多かったが、川の課題、一部海の課題も含めて意見交換を行った。

・山では、多額のお金をかけて山を守っていることをもっと知ってほしいという意見や山の荒廃や守り手がいないことなどが挙げられ、川では、東海豪雨による河床の上昇や濁水等の水質問題、土石流の発生などが課題とされ、それらがどうもつながっているようだということが共有化できた。

・そのため、上下流の相互理解を深めていくことが重要であることが参加者で共通認識できたと思う。

・また、山で暮らす人は山を守る、川で暮らす人は川を守る、海で暮らす人は海を守るといった人づくりが重要であり、地域社会で生きていくことができる流域圏をつくることが重要であると思う。

【B グループの討議内容について小澤 川副部会長より発表】

・山、川、海で活動するそれぞれの団体から、矢作川流域圏について意見交換ができた。

・川では、「近づきたくなるような川」にするべきとの意見が出された一方で、危険な箇所や我々が子供の頃に川で遊んだ遊び方などが現在の子供達に引き継がれていないことが課題との意

見があった。

・海では、上流から流れ着いたゴミの問題があるとの意見があった。下流域の地域の人間が放棄したゴミではないのに、下流域の住民がその処理をしているなど、山と中流域と下流域の住民・活動団体それぞれが認識する必要があるとの意見があった。

・また、河口部での干潟を活かした環境学習などをしてはどうかという意見も出た。

・山では、矢作川支川の水質を改善する必要があるとの課題が出された。また、伐採後の大量の竹の処理をどうするのかなどの意見が出された。

・山と川、海、それぞれがお互いのことを理解することが可能であるように思うので、ぜひ連携して流域圏全体をよくしていきたいと思う。

【C グループの討議内容について井上 海部会長より発表】

・山・川・海に関する課題や活動報告などの意見がそれぞれあった。海部会の部会長、副部会長がいたこともあって、干潟、青潮・赤潮の意見もあった。

・干潟の保全・復活を果たしたい。そのためには山から取り組み、上下流の交流を図っていく必要があるとの意見があった。また、上下流といえば、ペットボトルが海に流れ着くといったゴミに関する意見もあった。

・子ども達の川への愛着や思いをもっと増やすことが課題である。また、動植物への配慮や、生物のつながる環境づくりが大切である。また、矢作川といえば鮎といった意見もあった。

・また C グループでは、水質の意見も多かった。EM による水質浄化について活動報告もあった。水質のこともあるが、磯焼の原因になることから、濁り・濁水に関する意見が多く出た。

・それから、「まずやってみる」といった実践面や、「協働と情報の共有を」といった意見や、ハザードマップが、なぜそうなるのかといった情報も提供して欲しいといった情報提供に関する意見、外国人の方が川を利用することは一向にかまわないが、バーベキュー時のマナーを知ってもらう必要があるといった啓発に関する意見、川を守る機運づくりをといった意見があった。

５．勉強会について

・勉強会については、山・川・海の順番に行うものとし、平日の夜あるいは休日の昼間に行うことが決まりました。

・運営については、各部会の役員が企画実施していくものとしました。